



市長 來住 壽一

迎春

平成24年

ほっとコラム 51

明日の西脇市を目指して

年頭のごあいさつを申し上げます。今年、辰年。昇竜のごとく力強く活力に満ち溢れた一年になりますようお祈り申し上げます。

昨年は、東日本大震災による大津波と原発事故によって未曾有の被害が発生し、日本中が深い悲しみに包まれた一年でした。今も、不自由な避難生活をされている方が多くおられます。国民挙げて復旧支援に当たれたことがとても救いでした。皆さんと共に、一日も早い平安と復興をお祈りしましょう。

私にとって、今年、市長2期目の折り返し点。これまで取り組んできた課題を具現化させなければならぬと決意を新たにしております。皆さんと共に進め

てきた「市民主役のふるさと運営」にもう一步踏み込んでいきたいと思っております。

今春から、新規企業の誘致を目指して「上記延工場公園」の分譲を開始します。情報があればお寄せください。

次代を担う子どもたちの教育環境の充実も大きな課題。南中学校の改築工事を進め、小規模特認校である双葉小学校と老朽化した学校給食センターの改築に取りかかります。

児童館、コミュニティセンターなどを備えた茜が丘複合施設や水道の高度浄水施設の整備にも取り組んでまいります。国道175号西脇バイパスは3月の供用開始。続いて、北バイパスの整備に向

けて全力投球で国に働きかけていきます。多可町との定住自立圏構想の事業もスタートします。県立だった日時計の丘公園は、地域振興の拠点として市立で運営します。昨年9月の台風12号で被災した郷瀬町南部地域の浸水対策に着手します。就学前の子どもたちに、同じ教育と保育を保障する幼保一元化構想をまとめます。このほか福祉や保健、環境、地域医療、地域経済の振興など、多くの課題があります。

今年も、明日の西脇市を目指して、さまざまな施策を推進していきますので、市民の皆さんの一層のご支援をお願い申し上げます。

よい年でありますようお祈りします。



2:05.41
First Time 2:03.50

- ⑤ チームをまとめてきた主将の意地を見せ、順位を上げてゴールする三浦君
- ⑥ 緩やかな上りが続く丸太町通から烏丸通を駆ける村上君
- ⑦ 前との差を少しでも縮め、一秒でも早くつなごうと力走する牧浦君

第62回全国高校駅伝男子結果

順位	学校名	都道府県名	記録
1位	世羅高校	広島県	2' 03" 50"
2位	倉敷高校	岡山県	2' 05" 13"
3位	九州学院高校	熊本県	2' 05" 23"
4位	西脇工業高校	兵庫県	2' 05" 42"
5位	青森山田高校	青森県	2' 05" 51"
6位	豊川工業高校	静岡県	2' 06" 03"
7位	浜松日体高校	静岡県	2' 06" 07"
8位	東農大二高校	群馬県	2' 06" 08"

区間	距離(km)	氏名・学年	記録	区間順位	通過順位
第1区	10	廣田雄希(2)	30' 32"	20位	20位
第2区	3	藤原滋記(1)	8' 21"	4位	14位
第3区	8.0175	中谷圭佑(2)	24' 26"	4位	5位
第4区	8.0875	浅川倅生(2)	23' 53"	7位	6位
第5区	3	村上優輝(2)	9' 01"	4位	4位
第6区	5	牧浦聖士(2)	14' 51"	4位	5位
第7区	5	三浦雅裕(3)	14' 38"	5位	4位



① スタート直後のアクシデントを避けるため、後方から様子をうかがう廣田君
② 2区藤原君の勢いを受け、順位を九つあげ好走した中谷君



第62回全国高校駅伝競走大会
平成23年12月25日
於：西京極陸上競技場



③ 大混戦の2区を終始冷静に走り抜けた1年生の藤原君
④ つばぜり合いを繰り返して粘り強く8km区間を疾走。5区へとタスキをつなぐ浅川君



都大路で「心のタスキリレー」

チーム全員でつかんだ4位入賞

日本海駅伝以来の1区を担当した廣田君。順位こそ20位でしたが、まずまずのタイムで次走者へ。1年生でただ一人メンバー入りの藤原君は、2区を終始冷静に走り抜け、六つ順位を上げて3区中谷君につなぎました。

その勢いを受けた中谷君は、最初からハイペースで目の前の選手を抜き去り、5位で4区へ。西脇工高の伝統である粘り強い走り、上位入賞の望みをつなぎました。

4区浅川君、5区村上君、そして、6区牧浦君も「心のタスキリレー」を展開。折返し時と同じ順位でアンカー三浦君へ。主将としてチームをまとめてきた三浦君は、全員の気持ちが入められたタスキを掛け、見事、4位に順位を上げてゴールしました。

2位から8位までのタイム差が1分以内という激戦。何があっても動じないレース展開に、惜しみない拍手が送られていました。

レース後に聞きました。
多くの収穫が得られた大会
足立 幸 永 監督

メンバーを変えて臨んだためか、1区走者に負担がかかったようです。2区以降は、西脇工高らしい粘りのあるタスキリレーをしてくれました。生徒たちのさらなる可能性を見出すことができ、多くの収穫が得られた大会となりました。この経験を生かして、明日から新たな気持ちで挑戦していきます。

次は必ず優勝争いに！
三浦 雅裕 主将

「部員全員、都大路を楽しんで走ろう」これを全国大会の目標にしました。自分自身も第7区を任せられましたが気持ちよく楽しんで走れました。

1・2年生主体のチームです。きょうの経験を生かして、次回は必ず優勝争いに加わってほしいと思います。